



コロナ禍の医学教育を支えるのは学生と教職員の協働

医学部新型コロナウイルス対策委員会

おにがた かずみち
鬼形 和道

2019年春に発足した「島根大学医学部新型コロナウイルス感染症対策委員会」は、今週で95回目の開催となりました。本委員会には、当初から学部学生が委員として参加しています。医学教育を受ける側と授ける側、両者が話し合い協働することで、コロナ禍の医学教育を展開できていると感じています。具体的には、学部学生がオンライン授業の作成・配信をサポート、学生生活（課外活動～アルバイト等）に関する意見交換と方針決定、さらに病院長にも出席いただきベッドサイド実習のあり方等を協議しています。

キャンパス内への入構制限がある際にも、自宅のWi-Fi環境が悪い学生、あるいは教育を支援する学生は申請手続きを取った上で入構することが可能です。各教室には、「教室で学修するための手順」が張り出されています（図）。ベッドサイド実習に関しては、委員会の中に「臨床実習班」を編成して、感染状況を鑑み、また附属病院の機能を維持しながら、医学教育を提供し続けました。学生および教職員には、何度も次のメッセージを送りました：「出雲キャンパスに、医学部に、そして附属病院にウイルスを持ち込まない」 実習前のウイルス抗原検査の支援とともに、ベッドサイド実習という何にも代えがたい臨床教育の場を提供している病院長に感謝しています。

学生を見つけれないキャンパスは寂しい空間です。彼らが早期にキャンパスに戻り、学生と共に教職員が成長できる「大学」としたいと思っています。新学期からは、面接（対面）授業を増やしてまいります。そのため、学科別・学年別の「健康観察」の期間を設けています。

図 教室で学修するための手順

大学に来るとき

- ① 前日までに申請
※学部HPのフォームから
- ② 入構許可証を入手
※初回入構時に学務課で
- ③ 登校前に健康チェック
- ④ マスク着用
- ⑤ 玄関のカードリーダーで入構時刻を記録
- ⑥ 入室前に手洗い・消毒
- ⑦ 2m以上空けて着席
- ⑧ 静かに勉強

家に帰るとき

- ⑨ ごみを適切に処理
※特に飲食物の容器に注意
- ⑩ 使った机・椅子を清拭
- ⑪ エアコン・照明を消す
※最後に退室するひと
- ⑫ 玄関のカードリーダーで退出時刻を記録

教室で学修するための手順

医学部学務課 教育改革・教務担当

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年4月15日～5月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所（★印 学外開催）	対象者	主催者
3/18(金)～ 6/16(木)	令和3年度 第4回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2022年

4月
Vol.102

NEWS



CONTENTS

・新年度のご挨拶 「絆」
・副病院長挨拶、病院長補佐挨拶

・コロナ禍の医学教育を支えるのは
学生と教職員の協働
・研修会・講演会・セミナー開催情報

新年度のご挨拶

「絆」

病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

昨年4月に病院長を拝命して1年が経過いたしました。昨年夏の第5波、冬の第6波など新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま1年が経過しましたが、病院職員の強い連携でこの難局を乗り切ることができました。一方、地域の皆様方には少なからずともご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

さて、4月から脳卒中ケアユニット(SCU)を3床から6床に増床し、高度脳卒中センターの機能強化を行います。適応拡大に伴うロボット手術支援体制を強化し、泌尿器科領域から消化器外科、呼吸器外科、産科婦人科の各領域へと展開し、より安全な低侵襲手術を推進します。また、「都道府県がん診療連携拠点病院」としての重要な役割である緩和医療にも力を入れ、院内では緩和ケアセンターと緩和ケアチームの体制強化を行い、地域に向けては在宅緩和ケアとの連携によるシームレスな継続的医療の提供を図ります。2023年に稼働予定の、最新設備を備えた放射線治療棟の改修・整備も本年度から本格的に着手します。一方、2022年の診療報酬改訂では不妊治療が保険収載され、より一層充実した生殖医療の提供が期待されます。高齢者医療のみならず、不妊治療や小児疾患に対する医療提供体制の整備も重要と考えています。山陰で唯一、新生児の開心術が可能な小児心臓外科を有する拠点病院として、小児科と連携し先天性心疾患に対する治療を積極的に行います。

産声を上げてから最後の時を迎えるまで、全ての段階で地域に求められる医療提供体制を整備し運用すること、これが私たちの責務と考えています。病院職員の連携をより一層強化し、地域に根づく島根大学病院の使命を全うしたいと考えています。どうか本年度もよろしくお願い申し上げます。

副病院長 挨拶
(安全管理担当)臨床研究センター 教授 おおの さとし
大野 智

安全管理担当の副病院長を拝命しました臨床研究センターの大野智と申します。当院は、厚生労働省から承認された高度な医療を提供する県内唯一の特定機能病院です。しかし、それは万全な医療安全管理体制の整備が前提である事は言うまでもありません。一言で「医療安全」と言っても、その業務は、感染制御、個人情報保護、医療事故調査、医療相談室運営、臨床倫理など多岐にわたります。椎名浩昭病院長の下、安全管理担当の病院長補佐である名越教授(環境保健医学講座)、矢野准教授(臨床検査医学講座)と共に患者さんへ安全・安心な医療を提供できるよう尽力いたす所存です。今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長補佐 挨拶
(安全管理担当)環境保健医学講座 教授 なご きわむ
名越 究

本年4月から病院長補佐を拝命いたしました、医学部環境保健医学講座の名越です。直接患者さんを診ることはありませんが、公衆衛生の観点で病院の種々の業務に関わらせていただきます。医療機関、医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、行政のみなさんとはさまざまな調整の場でお目にかかることがあろうかと思います。当院が島根県の地域保健医療福祉に最大限貢献できますよう、病院の幹部の先生方のご指導を仰ぎながら力を尽くしてまいります。ご理解とご協力の程をどうかよろしくお願いいたします。



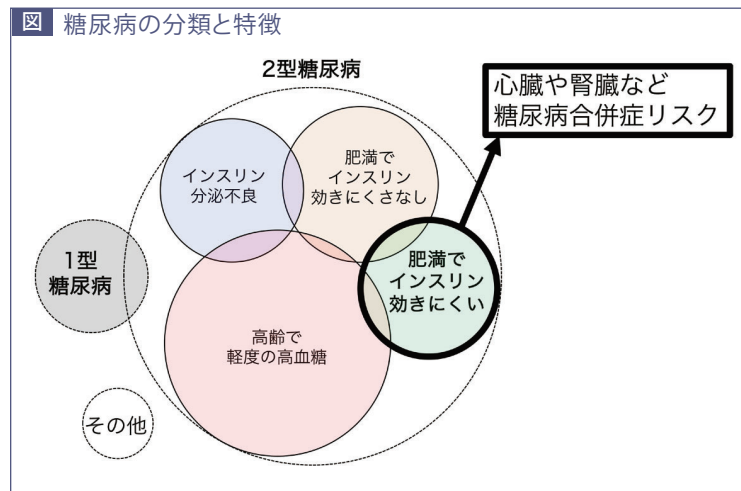
島大病院ニュース 2022年4月

ご報告

血糖値を下げることのみが 糖尿病の治療目標ではありません!!

内分泌代謝内科 診療科長 教授 かなさき けいぞう
金崎 啓造

糖尿病は、① 免疫などの影響でインスリン分泌が枯渇する 1 型糖尿病、② 2 型糖尿病、③ その他、に大まかに分類できます (図)。糖尿病の約 95% を占めるのは② 2 型糖尿病ですが、その中でも様々な特徴を有する方がいらっしゃいます (図)。2 型糖尿病の病態には、加齢や体質、社会的決定要因が多くの影響をもたらしています。食事・運動習慣など生活習慣も 2 型糖尿病に関与しますが、決して生活習慣のみで説明できるものではありません。



糖尿病の治療目標には特に注意が必要です。「血中インスリン濃度をどんどん増加させて血糖を下げる」、これは糖尿病の本質を見ている治療ではありません。血糖を下げることは一つの手段であり、それらを応用して合併症を抑制するのが治療目的です。最近の報告では、肥満でインスリンの効き方が悪い方や血糖値があまり高なくても血中インスリン濃度が高い方が、心臓や腎臓の合併症を生じやすい可能性が示唆されています (図)。

内分泌代謝内科では最先端の合併症抑制効果を有する薬を用いつつ、メディカルスタッフとも連携し集約的に糖尿病の合併症予防・進展抑止に力を入れています。特に糖尿病に伴う腎臓合併症 (糖尿病性腎症・腎臓病) に関しては世界最先端の治療介入を導入し、効果を確認しています。糖尿病性腎症専門外来も開設しておりますので、是非ご活用ください!

問合せ先 内科学講座 内科学第一 TEL : 0853-20-2183



2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年4月

ご報告

認知症への取組みの未来に向けて

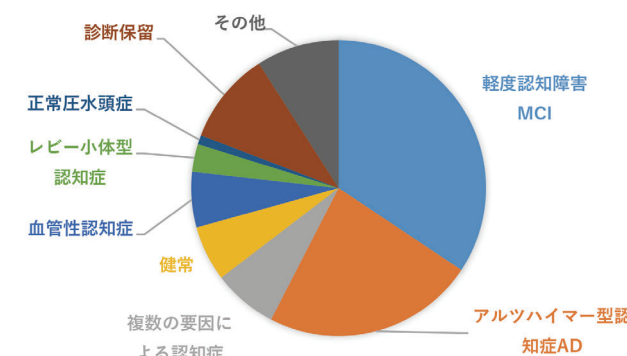
認知症疾患医療センター センター長/脳神経内科 診療科長 教授 ながい あつし
長井 篤

日頃の診療ではお世話になっています。もの忘れ外来では、普段より地域のニーズに応え、貢献できるように心がけて診療を行っています。今後も連携して診療を行えるようご支援をお願いします。今回は、認知症の診断に向けての私達の将来展望についてご紹介します。

認知症診療において、的確な診断を行い、取り巻く環境を整備しながら進行を抑制していくために、きめ細かい対処が必要とされています。そのような中で、認知症をきたす疾患も様々な原因から生じることがあり、対処法も異なってきます。当センターを受診される方の多くを占めるのは軽度認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症であり (図 1)、最初の 2 つの疾患は脳内にアミロイド β という物質が沈着することが原因と考えられており、脳血管性認知症にも同様の原因が深く関与していることがわかってきております。

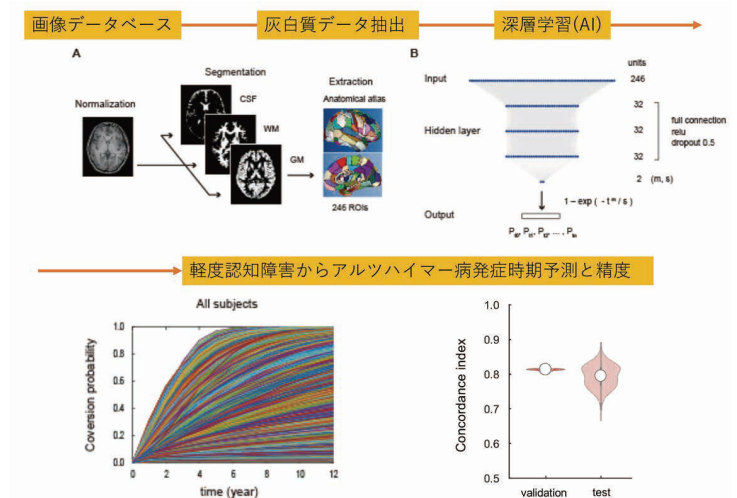
認知症診療の問題点は、診察や詳細な検査を用いても必ずしも正確な原因の診断ができないことです。アミロイド PET 検査を用いれば分かるのですが高価で限られた施設でのみしかできません。現状では軽度認知症の方の年間 10% 程度は認知症へ進行するのですが、10% は改善すると言われています。認知症になった場合、回復することは困難です。そこで、軽度認知症またはもっと軽いものの忘れの状態から認知症への進行を予測することができれば、予防対策を行うことができます。当院脳神経内科では、多くの画像データベースを解析することで、軽度認知症の方が認知症へ移行する可能性について AI を用いて予測するシステムを開発中で (図 2)、診断精度を上げるべく日々努力を続けています。

図 1 もの忘れ外来を受診された方の診断内訳 (2020 年)



問合せ先 認知症疾患医療センター TEL : 0853-20-2630

図 2 アルツハイマー型認知症リスク評価の試み

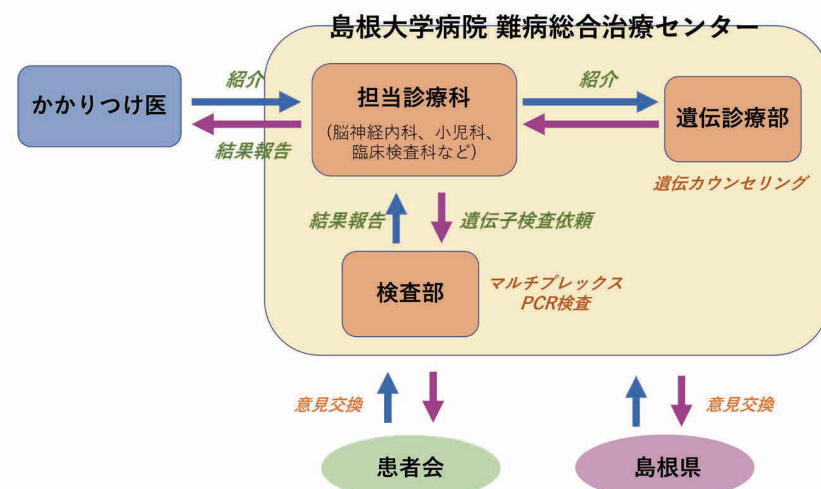


2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



難病総合治療センター
センター長就任のご挨拶

膠原病内科 講師 こんどう まさひろ
近藤 正宏



この度、村川洋子前センター長の後任として、難病総合治療センター長を拝命いたしました近藤正宏です。

当センターが担当する業務は多岐にわたっています。検査部および小児科では先天性疾病診断のため全国の患者さんの検査を受け付けています。薬剤部では、炎症性腸疾患や膠原病など難病患者さんの薬剤指導を行っており、患者さんの治療薬に対する理解をサポートしています。また、膠原病内科では産科と連携しハイリスク妊娠の対象となる患者さんの妊娠前からの介入も行っており4月からは膠原病 プレコンセプション妊娠外来も開設いたします。難病は長期間の療養が必要ですが、小児期発症難病患者さんの成人診療科への移行（移行期医療）への取り組みも小児科竹谷健教授を中心に行っています。小児期に難病を発症した後、成長をみてくれた主治医から離れ、成人科の医師に担当医が交代することも患者さんにとっては大きなストレスです。受診による通学への影響も考慮する必要がありますし、進学、就職など人生の節目にも問題なく治療を継続できるようなサポートも必要であり、そのためのコーディネーターの設置も重要な課題です。

難病総合治療センターでは、院内の色々な部門と協力し、難病患者会や県などとも意見交換を行いながら島根県の難病医療を向上させていきたいと思っています(図)。

どうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先 難病総合治療センター TEL : 0853-20-2196



SCUが増床になりました

高度脳卒中センター 教授 はやし けんたろう 林 健太郎

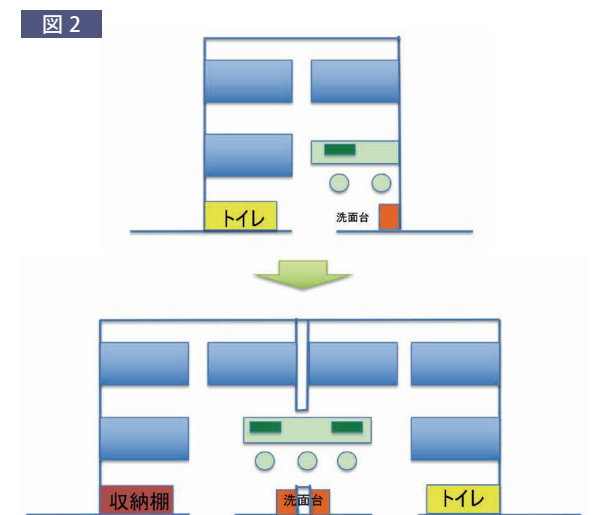
脳卒中ケアユニット stroke care unit: SCU は脳卒中専門の集中治療室という位置づけで、高度脳卒中センターのメンバーが 24 時間対応し、3 対 1 の専門看護と専任の理学療法士によるリハビリテーションで患者さんの回復を促します (図 1)。

厚生労働省の設置基準では脳卒中発症後 14 日間の急性期治療が適応となっています。2021 年 10 月に山陰ではじめての SCU 3 床がスタートしました。口腔ケアや摂食嚥下機能のリハビリテーションとも協力して栄養面からもアプローチしています。脳卒中の患者さんの回復も早く、SCU での多職種によるトータルケアの効果を実感しています。ただ、病床が少なく、重症度の高い患者さんを優先的に SCU に入室していただいております。

2022年4月からは6床に増床し、より多くの脳卒中の患者さんの治療が可能となります(図2)。元気なスタッフが一丸となって患者さんのケアに励んでおり、当院の病室のなかでも最もホットな治療室となっています。どうぞよろしくお願いします。



SCUでの専門看護と急性期リハビリテーションの様子



4人部屋2室を改修し、SCU6床として活用

脳卒中ホットライン TEL:090-2750-7524 (医療機関専用)



島大病院ニュース 2022年4月

ご報告



消化器外科(大腸領域)ロボット支援手術 ～軌道に乗ってきました～

消化器外科 講師 やまもと てつ
山本 徹

消化器・総合外科大腸疾患外科グループでは、2019年1月よりda Vinci(ダ・ヴィンチ：手術支援ロボット)を用いた直腸がん手術を導入し、今年で4年目に突入しました。

直腸がんに対するダ・ヴィンチ手術は、島根県では唯一当院のみが行っている手術です。はじめはかなり慎重に行っていましたが、昨年は月1例のペースで行うことができ、現在までに、約35例の患者さんに手術を行うことができました。

ロボット手術では、4本の手術アーム(3本の手術器具と1本のカメラ)を術者がコンソール(操作機器)から遠隔操作するために、ブレのない術野の描出や手術操作が可能となります。また、手術アームは腹腔鏡の鉗子よりも多くの関節を有しているので、人間の手に近い動きができるため、縫合や結紮などの手技も繊細でストレスなく行うことができます。

このように利点の多いロボット手術ですが、問題点もあります。ひとつは、手術を行うために術者や助手に対して資格が必要なことです。その取得のためには、専門の施設でトレーニングを行うことが必須となります。現在、コロナ禍の影響でトレーニング施設に出向くことができないので、大腸疾患外科グループでは資格のある術者と助手が一名ずつしかいませんが、今後増加していく見込みです。ふたつ目は保険適用が限られていることです。現在、大腸がんに対するロボット手術は直腸がんのみしか認められていませんので、ごく限られた疾患の患者さんにしか手術を行うことができません。しかしながら、4月からの診療報酬改定で結腸がん(大腸は結腸と直腸をあわせたものです)も保険適用となる予定ですので、より多くの患者さんに精度の高い手術が提供できる様になると思われます。

我々は、“多くの患者さんに安全な手術治療を提供する”、“高度な技術を持った若手外科医を育成する”、“島根に根付く次世代の医師を育成する(学生教育)”の三つ柱をモットーとして日々の臨床・教育を行っています。ロボット支援手術は、そうした目標を実現するのに非常に有効な一つのツールとして考え、今後も積極的に施行していく予定です。

ダ・ヴィンチ直腸がん手術に興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

問合せ先 消化器・総合外科外来 担当 山本 徹 TEL:0853-20-2384



2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年4月

ご報告



コロナ禍における集中治療

集中治療部 准教授 にかい てつろう
二階 哲朗

島根県内ではCOVID19感染により重症化した患者さんは高次機能病院へ搬送し治療を行うシステムを取っているため、当院集中治療部もその重要な役割を果たしてきました。COVID19重症肺炎の治療はウイルスの治療が重要な印象が一般的には強いかもしれませんが、現状重症化したのちの治療手段に有効なものではなく、ウイルス感染が自己免疫で治癒するのを待たなくてはなりません。その間に低酸素血症を避けることが重要になります。そのため重症化した患者さんには適切な鎮静・鎮痛薬の投与および、そして適切な酸素化を図るため、高流量酸素療法または人工呼吸管理が行なわれます。重症化した呼吸不全では努力呼吸が生じ、この過剰な自発呼吸により肺の障害が悪化することも近年言われるようになり(P-SILI: Patient Self Induced Lung Injury)、適切な呼吸管理の必要性が注目されています。また呼吸管理だけでなく、重要な臓器の保護に努める治療および患者さんが回復した際に元の生活に戻れるよう身体・精神的機能の維持を目標にケアを行ないます。コロナ禍ではありますがCOVID19感染ではない重症した患者さんも多くおられます。私たちにとっても、時に過酷な医療現場にはなりますが、常に患者さんを中心とした多職種連携によるチーム医療を行い、集中治療の役割を果たしていきたいと考えています。

どうぞ今後ともご支援いただければ幸いです。

問合せ先 集中治療部 TEL:0853-20-2453



2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年4月

ご報告

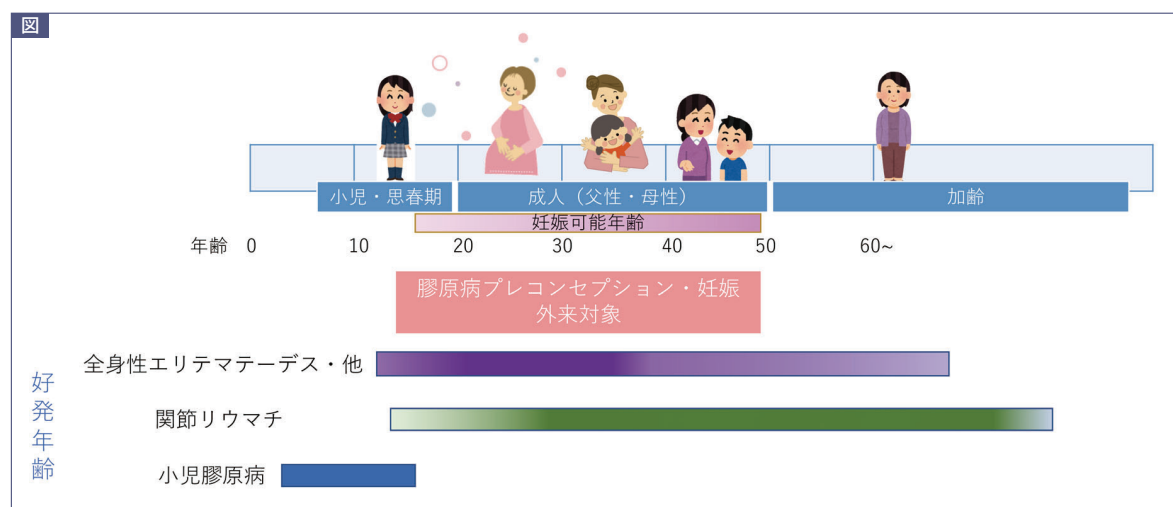
膠原病 プレコンセプション・妊娠外来

膠原病内科 特任教授 むらかわ ようこ
村川 洋子

コンセプションとは妊娠、受胎の意味です。2012年にプレコンセプションケア（妊娠前のケア）という“妊娠には妊娠前から健康状態を保つケアが重要である”という概念を世界保健機構 WHO が提唱しました。一般的には、避妊、禁煙、アルコール、栄養、肥満、糖尿病や高血圧、ワクチン（子宮頸癌や風疹など）などの問題があります。膠原病／リウマチ性疾患では、若年で発症することも多く、女性のライフイベントと病気の両立は重要な問題です（図）。

過去には病気で妊娠を諦めていた時代や、薬による胎児への影響を懸念して、妊娠前に副腎皮質ステロイド薬以外の薬を中止する時代もありました。今日では研究の進歩で、副腎皮質ステロイド薬以外にも妊娠／授乳中に安全に使用できる薬があり、病気をコントロールすることが妊娠出産にも良い結果となることが分かっています。

膠原病内科では、将来妊娠する可能性のある方および妊娠、授乳中の方を対象とした外来を新しく開設しました。15歳～40歳台の妊娠可能年齢の膠原病／リウマチ性疾患の患者さんが対象です。パートナーがいて近い将来妊娠を希望している方だけでなく、将来の妊娠希望を決めていない、また、するとしても10年以上先の遠い将来であるという方、パートナーがいない方も含まれます。普段は他院で受診している患者さんで、妊娠に関するセカンドオピニオンを求める方の受診も受け付けています。



問合せ先

膠原病 プレコンセプション・妊娠外来(第1および第3火曜日午後)
内科外来 TEL：0853-20-2381



2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年4月

ご報告

SDGs(Sustainable Development Goals)に関して アジア各国との国際パネルディスカッションを開催しました!!

医学部国際交流推進室 室長 かんの たかひろ
管野 貴浩

日頃より、島根大学医学部国際交流推進室の運営にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。この度、ベトナム社会主義共和国（2月20日）、インドネシア共和国（2月22日）、インド共和国（3月5日）、カザフスタン共和国（3月16日）と全4回にわたり、各国の医師、歯科医師等の医療従事者および学生、職員が参加する国際パネルディスカッションを開催しました。各回とも40名前後の参加者が集まり、「我々医療従事者はSDGsに向けて何ができるのか」をテーマに情報交換と討論を行いました。

このSDGsは今や大学、一般企業を含め全ての団体が取り組むべき国策の1つとなっており、17個の目標（ゴール）のうち、特に医療従事者としては3番（すべての人に健康と福祉を）、大学人としては4番（質の高い教育をみんなに）などへの貢献に社会からの期待が寄せられています。

今後も島根大学医学部国際交流推進室は医学部の皆様ならびに本学松江キャンパスの皆様と連携しながら、このSDGsのゴール達成に向けて医療従事者として貢献できる内容を模索しながら積極的に取り組んで参ります。ご理解ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17個のSDGs (Sustainable Development Goals) 一覧

問合せ先

医学部国際交流推進室 TEL：0853-20-2014



2022年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

